

熊本未来新聞

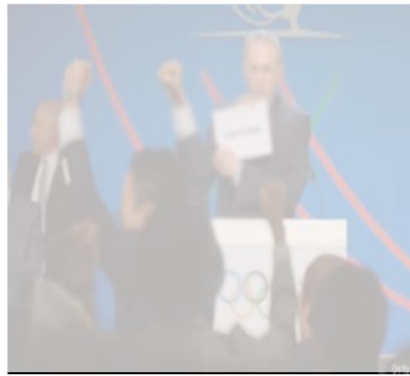
発行者
No Border

万田坑世界遺産登録へ

山都町人口急増の謎

県民所得3割アップ

『くまもとながるた』 オリンピック正式種目に決定



IOC(国際オリンピック協会)のコロナ委員長は24日、『くまもとながるた』を2020年東京オリンピックの正式種目とすることを発表した。

『くまもとながるた』の競技人口が世界中で10億人を超え、世代や人種を超えて競技できることが高く評価された。この発表を受け、熊本県のくまモン知事は、「大変光栄なことだモン」とコメント。熊本発のかるたが世界的な舞台へ広がっていくこととなった。

(松本和夫)

紛争地でも広がるかるたの輪

今や世界中の子どもたちの共通の遊びとなった『くまもとながるた』は、紛争解決にも一役買っている。中東イスラエル。長年、パレスチナとの紛争が続いてきたこの地でも、イスラエル版つながるたは大人気だ。若い世代を中心にかるたでの交流が始まり、民族の対立を超えた対話のきっかけとなっている。

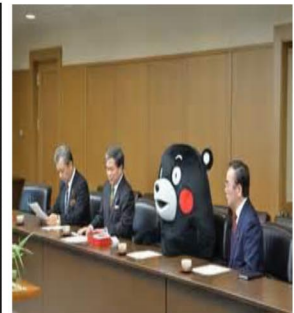
(北村猛司)



熊本県とジャカルタ姉妹都市に

くまモン知事は定例記者会見で、インドネシアのジャカルタと姉妹都市提携を結ぶことを発表した。県はかるたを使った地域振興を推進しており、知事は「この提携により、これまで以上に熊本のことを知ってもらえる100年に1度のビッグチャンスが来た。ジャカルタと熊本は「カルタ」つながりであり親近感が沸く。今後もいい関係を継続し互いの発展につなげていきたいモン」と喜びを表現した。

(池本綾乃)



新星面

大人と子供の誰もが遊べ、これまでにない機能が多くのひとを魅了してきたつながるた。このかるたは家族や地域がつながるきっかけを与えてくれる。親と子でかるたを使って遊ぶことにより、子供がその地域について興味をもつなど親子が一緒に行動するきっかけをつくることができる。そしてその輪は、親子だけでなく祖父父母の世代にも広がっている。地域の子供会や小学校等での教育、高齢者施設や障害者施設等でのレクリエーションに導入するところも増え、地域全体とのつながりを大きくする役割を担っている。

さらに、熊本県内の市町村の型どった札のQRコードを読み取れば、その市町村の情報が得られる。それにより、熊本各地の魅力について知り、興味を持ち、行ってみようという気持ちを起こさせ、郷土愛を醸成するきっかけとなる。加えて現在では絵札に描かれた地域を周るバスツアーなど観光と連携した取り組みも人気を集めているところだ。

このつながるたは、人と人とのつながりをつくり、県民の郷土愛を高めるとともに県外の熊本ファンをもつなげ、数十年、数百年後も熊本を愛し語り継ぐものとして活用されていくだろう。

(山口裕史)

